

ASSOCIATION OF
MUSICAL ELECTRONICS INDUSTRY

AMEI

News

2000年11月27日発行

Vol.14

「デジタルミュージックフェア -MIDI WORLD 2000-」大盛況に開催!!



デジタルミュージック・フェアは今年も「ばそまる2000」と併催にて東京ビッグサイト西ホールで開催されました。快晴の4日間に恵まれ、来場者数は「ばそまる2000」と合計138000人となりました。

出展はカシオ計算機、河合楽器製作所、コルグ、シーミュージック、第一興商、日本シンセサイザープログラマー協会、日本電子専門学校、松下電器、ミュージックネットワーク、ヤマハ、ローランド、音楽電子事業協会。各社、新製品や新ソフトを展示、デモ演奏等で賑わいました。

CONTENTS

- DMF ミレニアムイベント 2・3
- MIDI検定試験 3級・2級結果 4
- MIDI検定試験 3級・2級予定 5
- [新委員長紹介] 6・7・8
- Mobile Guideline for MIDIの概要・主旨 9
- 容器包装リサイクル法 10
- NAMMビジネスツアー 11
- AMEI会員名簿 12

AMEI NEWS Vol.14 / 2000.11.27

社団法人音楽電子事業協会 機関誌

発行：社団法人音楽電子事業協会 事務局

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-16-9

イトービル4F

TEL. 03-5226-8550 FAX. 03-5226-8549

発行人：中田 健

編集人：福田 誠(広報委員会)

編集協力：株式会社 ラプラス

ホームページアドレス：<http://www.amei.or.jp/>

デジタルミュージックフェア 開催結果概要

名称: デジタルミュージック・フェア (サブタイトル: MIDI WORLD2000)
期: 2000年7月20日(木・祝)～23日(日) 午前10時～午後5時
場: 東京国際展示場(東京ビッグサイト) 西ホール(東京都江東区有明3-21-1)
催: 社団法人 音楽電子事業協会、日本経済新聞社
後援: 通商産業省、文化庁
協力: (財)マルチメディアコンテンツ振興協会、日本楽器フェア協会、日経BP社、日経ホーム出版社、テレビ東京(順不同)
展示会規模: 12社 100小間
同時開催: もっと楽しい、もっと得する、インターネット生活。「ばそまる2000」(主催:日本経済新聞社)
来場者数: (同時開催イベントと共通)
 7月20日(木) 晴れ 33,559名
 7月21日(金) 晴れ 25,676名
 7月22日(土) 晴れ 39,237名
 7月23日(日) 晴れ 39,727名
 合計 138,199名
 [前回('99、同時開催イベント「ばそまる2000」と共通) 111,053名]

ミレニアムスペシャルイベント

1、「MIDIスペシャル・トップ・フォーラム～電子楽器の発展と未来～」

講演は和智正忠氏(ヤマハ(株)常務取締役「電子楽器の開発」)、梯郁太郎氏(ローランド(株)取締役会長「MIDI誕生と未来」)、富田勲氏(作曲家・シンセサイザー奏者「シンセサイザーと音楽」)

電子楽器の発展と共に歩まれた三氏の貴重なお話とあって、特設会場(東京ビッグサイト会議棟6F)には早くから参加者がつめかけていました。音楽、映像を交えた興味深い講演は、予定をオーバーし2時間半にも及びましたが、180名の参加者は最後まで熱心に聞き入っていました。今後もこのような有意義で且つ楽しいフォーラム開催を望む声が大きかったようです。講演内容のポイントは「MIDIスペシャルトップフォーラムの内容紹介」をご覧ください。

2、シンセサイザー・ミュージアム「あの曲は、この1台から生まれた」

会場中央に作られたミュージアムは、Moogを始め歴代のシンセサイザーが展示された博物館。普段お目にかかれない往年のアナログ名機に注目が集まっていました。コーナーでは出展協力のJSPAスタッフによる説明、ステージでは松武秀樹氏、氏家克典氏の演奏、トークが繰り広げられ、多くの視聴者に感動を与えていました。

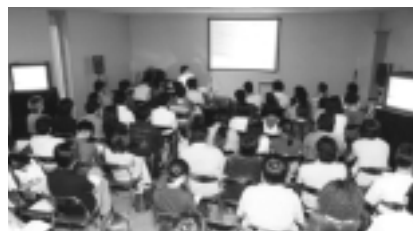
主な展示品

- ・ヤマハ: GX-1、DX7、VL1、Cs6x、Silent Ensemble Piano Pro2000、
- ・ローランド: SYSTEM700、Jupiter-8、SH-1、D-50、TR-808、JP-8000、VP-9000
- ・コルグ: PS3300、M-1、MS-20、MS-2000
- ・その他: Moog III C、Mini Moog、Prophet5、Oberheim OB-8、Arp Odyssey、Emulator、Lino Drum Modular



3、「MIDI古今東西ミレニアム講座」(MIDIをインターフェイスにすると、音楽はここまで面白くなるぞ!)(ソフトウェア部会主催)

「シンセサイザー・テクノ・ルーツ」松武秀樹氏による演奏を交えた講演、MIDIや周辺機器の発展によって何が可能になるか、今後どのように変わって行くかを大変楽しく語っていただきました。



4、MIDI検定セミナー (MIDI認定委員会とJSPA共催)

各種のMIDI検定セミナーが毎日開催され、熱心な受講者が参加されました。「MIDI検定入門講座」「MIDI検定3級講座」「MIDI検定2級講座」「MIDIビジネス特別講座」

第一部

「電子楽器の開発」電子楽器の登場と音源開発

講師：和智正忠

電子楽器開発の歴史をビジュアルで分かりやすくご説明頂きました。電子楽器は新しい音、音楽が創造でき、技術の進歩と共に革新が期待できるものとの定義があり、電子楽器の基本となる技術はグラハム・ベルによって発明された電話技術に始まり、真空管、トランジスタ、CPUの技術革新と共に発展してきた事を挙げられました。初期のテレハーモニウムは1音を発生するローターが人間大の大きさほどあり、それぞれの倍音と61鍵盤分の音を発生する設備を備えるには紡績工場のような巨大な建造物になったお話、又それらの演奏をレストランなど離れた場所へケーブルで送るアイデアは、現在の音楽配信の始まりである事等大変興味深い事柄です。ディジタル型電子楽器の開発用機材は当初億単位の相当な金額であった事など、さらに興味深い話題が盛り込まれていました。アナログ、FM音源の説明の後、物理モデルに付いては壇上の両脇にロープを張り、音の基本である波形の動きを棒で叩いて揺れる波、折り返す波を見て実感してもらおうとの試み。実に明解な解説ゆえ会場では満場一致で納得させられました。



第二部

「MIDI誕生の背景とこれから」 MIDI誕生と未来

講師：梯 郁太郎

1935年のハモンドオルガンの登場を、完成された電子楽器の元年とすれば、電子楽器の商業化はまだ65年である事。アコースティックな楽器では定着しているスタンダードが大切である事からお話は始まりました。各メーカーから開発されるようになったシンセサイザーは、1オクターブを1ボルトとする方式と、0.1ボルトをオクターブ（12倍）で1.2ボルトとする方式など標準化は難しかった中で、電子楽器にスタンダードが必用であると実感されて、デジタリ化を迎えた時にMIDIがスタンダードとなったことは非常に重要な出来事と話されていました。1982年のNAMMショーで初めて、メーカーの異なる電子楽器がMIDIで接続しお互いに交信できた瞬間は感激的であったと述べられていました。MIDIも計画当初にはパラレル転送などの意見もあったが、現在のスタンダードとなり得たのは、合理的な方法で、シリアル転送に絞った事が正解であったと語られました。高い圧縮率と合理性を持つMIDIはこれからも不変であり、活用されるべき要素がまだ沢山残っているとの事。最新機種機能もMIDIでコントロールしている様子をバリフリーズを通して説明頂くなど、MIDIの可能性と未来を熱く語って頂きました。



第三部

「シンセサイザーと音楽」 音楽と音響、映像と音楽

講師：富田 勲

冒頭にNHKの特別番組で「ナスカの地上絵」を訪れ、冒険心と共に音響から音楽に興味を持たれた富田会長の原点がビデオで紹介され、講演はMOOGシンセサイザーを使った苦労話から始まりました。（写真）

マニュアルの無いアメリカ製の機器に、単音1つ出すにも多くの配線と手間と格闘された事。ロータリースピーカーの音響効果得る為に、ターンテーブルに乗せたスピーカーを回転させ録音された事など、様々な音楽（音）作りのエピソードを聞く事ができました。他で聞くことの出来ない4チャンネル音響の作品再生には、工夫を凝らしたその作品「月の光」「パシフィック（機関車）」に、会場にいた多くの方が感銘を受け感動されていました。さらに現在も精力的に作品を制作され、表現方法においてはMIDIを活用されている事を通じ、これからの若い方を励ますと共に、日本のメーカーが発展させた現代の電子楽器は、昔海外から伝わった楽器が日本の和楽器として現在に残るように、もはやMIDI機器も和楽器とも言えるなどのお言葉を残し、今回のフォーラムの最後を美しく結ばれていました。



社団法人音楽電子事業協会・MIDI認定制度
 コンピュータ・ミュージックの共通ライセンス
 「MIDI検定試験」の平成11年度・実施結果

【◎MIDI検定試験の目的】

発展を続けるマルチメディア社会の中で、文字や映像などと並び、重要な要素の一つに音楽があげられます。そしてマルチメディアの音/音楽の中で中心的な役割を果たしているのが、いわゆるMIDI規格です。MIDI規格は、電子楽器の制御プロトコルとしての活用はもとより、電子音楽のソフトウェア、コンピュータネットワークでやりとりされる音楽データや、通信カラオケの送信データにいたるまで、電子音楽の

事実上の標準規格となっています。

このような状況のなか、MIDIを使った音楽制作の現場では、MIDIに関する知識を持ち、データの制作・監修ができる人材が求められています。「MIDI」規格の管理・推進は社団法人音楽電子事業協会が一元的行なっています。「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会の登録商標です。

【◎平成11年度「第2回MIDI検定試験・3級」の実施結果】

社団法人音楽電子事業協会では、音楽情報を効率よく伝達するための規格「MIDI (Musical Instrument Digital Interface) 規格」を理解活用できる人材育成を目的として、日本シンセサイザープログラマー協会（会長：富田勲）の協力を得、「第2回MIDI検定試験（3級）」を「平成12年1月23日（日）午後1時30分より（90分）」、全国（東京、大阪、名古屋を始め全国主要都市）71会場にて実施致しました。受験応募者は約3,000名（正確には2,737名）にのぼり、改

めてMIDI関連、デジタルミュージック関連の音楽制作に興味と関心をもつ若者の多い事（問い合わせ件数・受験案内請求は6000名強）が実証されました。

合格者は1,542名（合格率64.9%）、2月10日AMEIホームページ上にて合格者受験番号を発表し、「3級合格証-MIDI LICENSE-カード ブルー」を合格者全員に郵送致しました。（合格者分析：別表）

【◎平成12年度「第1回MIDI検定試験・2級」の実施結果】

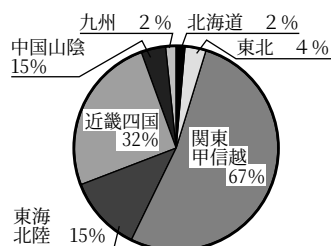
2級検定試験では音楽制作現場で即戦力として活躍できる人材の育成と認定を行なうもので、認定試験のレベルは高度な基準が求められ、「企業現場でもMIDI規格を熟知した音楽制作プロ及び技術開発要員として推薦出来る」人材の育成と認定を目標と致して居ります。

- ・2級1次試験（筆記）平成12年5月28日（日）午後1時30分より90分
筆記試験受験申込者 979名（1次筆記試験受験料¥4,000）
1次筆記試験合格者 350名
- ・2次実技試験が7月11日より29日にわたって東京・大阪・名古屋のヤマハ、ローランド、アップルコンピュータ、日本工学院八王子校、名古屋自由学院短期大学会場にて実施されました
実技受験者 323名
2級合格者 127名（2級受験者総数に対し14.8%）（2級2次実技試験受験者に対して39.3%）
- ・合格発表はAMEIホームページ上にて8月30日実施、合格者には「MIDI LICENSE カード・シルバー」を授与いたしました。（1次筆記試験のみの合格者には2級1次認定カードを送付いたしましたー3年間有効）
- ・協力会社
アップルコンピュータ（株）、（株）インターネット、（株）オービットミュージクス、カモンミュージック（株）、富士通（株）、（株）メディア、（株）メガフュージョン、ヤマハ（株）、ローランド（株）
- ・使用ソフト
Performer、Cubase、VisionDSP、Singer Song Writer、Cakewalk Proaudio、XGworks、Logic Audio Gold、Digital Performer
- ・MIDI検定試験2級合格者地域別分布

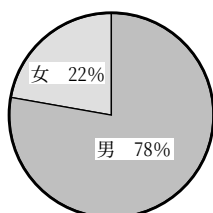
地域	受験者 (申込み)	受験者分布 (%)	1次合格者 (筆記)	2次合格者 (実技)	分布 (%)
北海道	28	3	8	2	1.5
東北	21	2	9	4	3.1
関東甲信越	565	58	200	67	52.8
東海北陸	104	11	39	15	11.8
近畿四国	219	22	81	32	25.2
中国山陰	16	1	8	5	3.9
九州	28	3	5	2	1.5
合計	979	100	350	127	100

・2級合格者分析

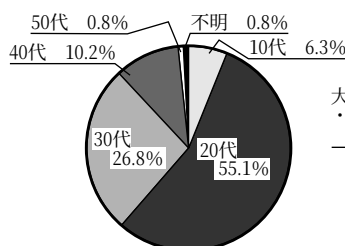
地域別分布



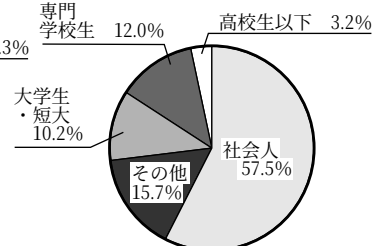
男女比



年齢構成



職業構成



- ・2級合格者名
- ・実技100点満点合格者 (3名)
- ・実技合格者 (124名)

【◎12年度実施予定（3級、2級）（平成13年1月）】

名称：平成12年度「第3回MIDI検定・3級」試験
 主催：平成12年度「第2回MIDI検定・2級1次」筆記試験
 共催：社団法人音楽電子事業協会
 協力：日本シンセサイザープログラマー協会
 協力：社団法人音楽電子事業協会 会員企業
 実施日：平成13年1月28日（日）3級 午後1時～午後2時30分（90分）
 2級筆記 午後3時30分～午後5時（90分）
 ・2級実技は平成13年3月5日～30日を予定（2級筆記合格者に別送案内を送付）
 受験料：3級 ￥3,000
 2級1次（筆記） ￥4,000 2級2次（実技） ￥10,000
 受験資格：2級については、3級強化カード所有者（3級合格者）である事が必要
 但し、1月28日同日3級&2級1次を受験する事が可能。
 合格点：3級&2級筆記 いずれも80点以上が合格
 応募期間：3級&2級1次筆記試験 10月16日～11月30日
 申込方法：「専用受験案内」綴じ込み受験申込書にて協力校窓口又は綴じ込み郵便振込み用紙で
 直接 社団法人音楽電子事業協会に申込む
 社団法人音楽電子事業協会 TEL：03-5226-8550
 協力校&試験会場（筆記試験：全国主要都市 80会場）（実技試験：東京、大阪、名古屋）

【◎12年度協力校&試験会場（筆記試験）】

(東京・横浜) アイテックスミュージックアカデミー 音響技術専門学校 学) 東海学園 神奈川情報文化専門学校 音原学園専門学校デジタルアーツ東京 総合学園ヒューマン・アカデミー東京校 * 東京工科大学 * 東京スクールオブミュージック専門学校 東京ビジネス専門学校 * 東京ビジュアルアーツ 東放学園放送専門学校 日本工学院専門学校 * 日本工学院八王子専門学校 日本電子専門学校 * メーカー・ハウス ヤマハ音楽院 代々木アニメーション学院 (九州) 専門学校九州ビジュアルアーツ	(大阪・京都・神戸) キャットミュージックカレッジ専門学校 J E U G I A 三条本店 ティブス/コンピュータミュージッククラブ/DEE * 職業訓練法人/大阪レモン・アガミ * 神戸電子専門学校 ビジュアルアーツ専門学校 大阪 (名古屋) 大垣女子短期大学 名古屋音楽大学 名古屋自由学院短期大学 名古屋ビジュアルアーツ専門学校 (仙台) * 専門学校デジタルアーツ仙台 日本コンピュータ学園・東北電子計算機専門学校 (北海道) 札幌科学技術専門学校 (新潟) 新潟会計ビジネス専門学校 (広島) 広島コンピュータ専門学校 広島工業大学専門学校
---	---

(島村楽器店) 47店
 旭川、札幌、釧路、八戸、秋田、仙台、利府、宇都宮、水戸、大宮、新所沢、津田沼、市川、千葉、成田、新宿、八王子、
 錦糸町、平井、船堀、横浜、本牧、港北、新潟、金沢、長野、松本、岡崎、大分、佐世保、長崎

*は外部受験者を受け入れません（当該校の生徒のみ）

【◎MIDI検定試験の内容】

- ・3級出題範囲（MIDI規格1.0に準拠）
 - 「MIDIの基礎」 音楽情報の伝達、バイトとビット、MIDIケーブルの接続
 - 「MIDIメッセージ」 MIDIチャンネル、ステータスとデータ、メッセージの種類
 - 「ノートデータ」 ノートオンオフ、ベロシティ、ゲートタイム、タイミンク
 - 「コントロールデータ」 音色の切替、ピッチベンド、コントロールチェンジ
 - 「システムメッセージ」 システム&メーカー、エクスクルーシブ、
 - 「MIDIの知識」 MIDIの歴史、アナログシンセの基礎、GM&SMF
- ・2級出題範囲（MIDI規格1.0に準拠）
 - 「セッティング」 機材接続と環境設定、インターフェイス、ソフトウェア、セットアップ
 - 「フォーマット」 ハードウェア規格、SMF、GM、SMFL
 - 「シンセシス」 シンセサイザー概論、音色知識、音源知識
 - 「コントロール」 楽譜情報、ノート情報、コントロール情報、演奏表現、
 - 「エフェクト」 音響効果とエフェクター、リバーブ、ディレイ、コーラス
 - 「シンク」 シンセサイザー外部同期、MTC、SMPTE、MMC
 - 「マルチメディア」 ソフトシンセ、インターネット、Audioファイルの活用、応用

【◎ MIDI検定公式ガイドブックの発行】

「MIDI検定3級公式ガイドブック」：定価¥2,000プラス税
 「MIDI検定2級公式ガイドブック」：定価¥3,800プラス税
 「MIDI検定2級実技試験公式ガイドブック」：発刊予定13年2月、価格未定
 MIDI規格1.0準拠、MIDIの基礎知識を網羅。
 発行・販売 社団法人音楽電子事業協会
 著作・制作 日本シンセサイザープログラマー協会

1. 2000年以降の市場動向について

今年は経済や社会のあらゆる分野において、重要な転換点として歴史に残るミレニアムの年になることは間違いないことでしょう。

AMEIの身近なところでは、仲介業務法が廃止され、新たに著作権等管理事業法が国会に上程されるべく準備が進められております。また着信メロディなどの携帯電話による音楽応用サービスが大きく発展し、技術仕様や著作権の分野でAMEIの活動の重要性があらためて認識されております。

このように21世紀に向けて社会や経済のインフラが大きく変動しているにも関わらず、政府においてはやっとなIT革命に国家を挙げて対応することになったように、国際社会における日本の変革の速度と内容は、必ずしも世界の最先端を走っているわけではなく、むしろインターネット回線や各種規制緩和も世界的な水準から見るとやや遅れていると言わざるを得ません。確かに、iモード（モバイル・インターネット）などのように世界最先端水準の分野も一部にはありますが、政治や行政は相変わらずの利益誘導、公共事業主導の経済運営から脱しておりません。

すでに北欧や米国、アジアの一部では「光ファイバー」網によるネットサービスが実用化しており、DSLなどの高速回線による情報インフラを生かす事業改革を、官民一体になって推進しているのが実情です。

AMEIにおいてもIT革命の先頭を進む事業者団体として、その変革をリードしていく必要があると思えます。

2. 委員長就任にあたって

このたび村井委員長の後を受けて、運営委員長を引き受けさせていただきました。

運営委員会は、当社団の最高執行機関である理事会及び会長、副会長、専務・常務理事からなる三役会と、AMEIの実質的な活動を担っている各専門委員会の相互を結ぶジョイントの役割を持っております。

AMEIの会員企業への活動支援と、AMEIが果たすべき社会活動支援を具体的な活動テーマとしている各委員会は、本当に熱心に活動しております。

各委員会の具体的な日常活動をAMEIのオフィシャルな活動としてオーソライズすると共に、各委員会活動の相互連携が円滑に進められるようサポートすることが、運営委員会の重要な課題と思っております。

AMEIの社会的役割を全うすべく各専門委員会等に参加されている会員企業や、具体的に委員会に参加されている皆様の活動が円滑に進められるように、事務

局のサポートをいただきながら精一杯頑張りたいと考えております。

3. 今後の抱負

AMEIには、IT社会に貢献する音楽電子事業者の団体として、MIDI関連技術を中心に、音楽電子事業の発展に寄与する為の活動が期待されております。各専門

委員会の活動に関して言えば、特にインターネットやモバイル・インターネットにおけるMIDI音楽コンテンツ事業が今後ますます注目を浴び、以前にも増してMIDI規格の普及、およびMIDI関連ソフトやMIDI関連機器の普及などのために必要とされる様々な課題の整備が重要視されて来るでしょう。

音楽電子事業のIT革命への対応は、AMEI参加企業の発展に貢献するだけでなく、MIDI機器の普及やモバイル音楽配信サービスやエレクトロニクス・エンターテインメント（ロボット）などへの応用へと拡大する反面、セキュリティ技術の確立、および著作権やMIDI音源等の著作隣接権の確立等も重要な課題になるものと思えます。

そのような状況の中、新たな21世紀に向けてAMEI参加企業の事業が更に発展することを目指し、音楽電子事業者団体として、社会や行政および他の業界団体との接点を常に最良の状態に維持することが、AMEIの最も必要な活動課題と考えます。

企業活動においては常に厳しい競争にさらされている加盟会社同士ではありますが、ことAMEIの活動に関しては、社会と企業が共有するフレンドリーな関係を保ちつつ、新しいサービスや技術を提供することで社会に貢献する団体であることを期待しております。



佐々木隆一委員長

Q1: 委員長ご就任にあたってひとことお願いします

A1: ソニーマーケティング株式会社の岡田です。
この4月、前任の浜谷さん（ティアック株式会社）より、デジタルレコーディング委員会の委員長を引き継ぎました。大変な役目を仰せつかったと思いますが、浜谷さんの活躍、実績、意志をもとに、さらに魅力ある委員会となるべく活動して行きたいと考えています。

Q2: デジタルレコーディング委員会の活動目的をご紹介下さい

A2: デジタルレコーディングに関する知識を広め、それを通じてユーザー啓蒙を計ることが主な目的です。

デジタル接続では、決められた約束事や条件に従って動作させると、比類のない高性能を発揮する事ができます。そのためには基本的な技術知識を持つと共に、種々の事柄に対する応用力を養う必要があります。それらの情報を的確に市場に広め、誰もがその高性能を大いに利用できる環境作りをする事により、製品購入などが促進され、音楽産業発展の手助けができればと考えています。

Q3: デジタル接続での問題はないのでしょうか

A3: デジタル接続の恩恵を簡単に得られると思って複数の機器を組み合わせて使用したり、あるいはシステムに組んで使用した場合、期待した動作性能が得られず、問題や不具合が発生し、しかもその解決策を見出せなくなるケースがよくあります。このような状態でユーザーが各メーカーに問い合わせても、そのメーカーからは機器単独では問題や不具合がないと回答され、場合によっては各機器のメーカー間をたらい回しされ、それでも何の解決案も得られないと言う事態が発生しています。

Q4: それらを解決するために技術情報を公開するという事ですね

A4: はい、そうです。当委員会では前述のような状態を解決するため、デジタル接続の基礎知識の整理、および種々の問題、不具合発生を解決、回避するための情報について、メーカー相互の検討を毎月実施しています。そして有効な知識情報をまとめ順次公開しています。その公開方法は、音楽電子事業協会のホームページの中にデジタルレコーディング委員会のホームページを作成、ユーザー誰もがここにアクセスしてこれを利用出来るようにしています。

Q5: ホームページの概要をお聞かせ頂けますか

A5: 1999年4月より公開を開始しました。毎月委員会で検討してその内容を更新・追加していき、現在のホームページの構成は以下の通りです。

- 1) イベントスケジュール
・・・デジタルレコーディングに関係したイベントを掲載しています。国内、海外の年間予定の確認用。
- 2) 機器接続のためのヒント
・・・守って頂きたい事項やPIN配列など、メーカー相互間で異なる情報の掲載。
- 3) 基礎知識

- ・・・デジタルの基礎知識
- 4) 用語説明
・・・デジタルレコーディングに関連した用語の解説。現在約400項目を掲載。メーカー独自の用語も掲載予定。
- 5) デジタルインプリメンテーションチャート
・・・デジタル接続時に必要な情報をメーカー機器毎に掲載。
- 6) セットアップメソッド
・・・特別な接続例での情報。
- 7) 出版物のお知らせ
・・・当委員会編集の本の紹介。



岡田 仁美委員長

当委員会では、メンバーの誰もがこのホームページ作成に参画する事を目的に、作成手法の講習などを適宜行っています。このページの目標は、デジタルレコーディングに携わる全ての人のコンピューターに、ブックマークに登録されること、とにかく解らない事があったらこのページを覗いてみようと言われることです。

Q6: その他の活動についてお聞かせ頂けますか

A6: 最新の技術、または特定の技術・情報などを得ようと思っても、通常なかなか機会がありません。委員会に参加している事でそれらの情報を入手出来ればと考え、現在、小規模ですが不定期にセミナーを開催しています。2000年は「DVD」と「同期」をテーマにして実施し、12月は「MIDI」を予定しています。将来的には当委員会主催で、充実した内容のセミナーを定期的に実施できる様に行きたいと思っています。

Q7: 今後の抱負についてひとことお願いします

A7: 委員会での意見交換、情報確認などから出た有効な情報は、各社の設計部門や営業部門などへ報告され、今後の製品開発、ユーザーからの質問への対応などに役立っています。さらにメンバー間の連絡網は、問題が発生した場合のホットラインとしても機能するようになって来ました。

しかし現在、参加メンバーが機器メーカー中心のため、使用者側から見た要望が十分には把握できず、議論されていない事も事実です。今後は、他方面からのメンバーを加え、さらに幅広い意見も取り入れて、音楽電子事業協会会員のみならず、誰からも利用価値のある委員会と評価されるよう活動したいと思っています。どうかよろしくお願いいたします。

Q1: AMEIとMIDIの生い立ちを振り返ってのご感想をお願いします

A1: AMEIも設立からすでに5年目を迎えますが、この間、デジタルネットワークにおけるMIDI規格の普及・拡大を核として、他業界の様々な規格との調整や、新規にGMレベル2を立ち上げる等、着実に新時代への対応をして参りました。そのMIDI規格も、スタートしてすでに20年余が経過しております。振り返ってみますと、MIDI規格は当初の基本概念を変えることなく、今日まで健全な成長と発展を続けて参りました。規格を立案した当時はアナログ中心のハードウェアがまだ全盛であったにも関わらず、20年後の今日まで通用するMIDI規格の基本を構築した訳です。世界中の楽器メーカーがコンピュータの普及を予知し、コンピュータと楽器とのコミュニケーションという明確なコンセプトをかけた、将来の業界発展を目標にして驚異的なスピードでこれを完成させたのです。この偉業が達成できたのは諸先輩方の、国境や企業の枠を超えた相互協力があったからにはかならず、発案者であり、かつリーダー的存在であった米国シーケンシャル・サーキット社の社長Mr. Dave Smith には、改めてMIDI規格委員会より感謝の意を表したいと思えます。

また、AMEI設立以降、長期間に渡りMIDI規格委員会の運営を献身的に勤められました亀山前委員長に対しても深く感謝申し上げますと共に、今後ともなお一層のご支援ご鞭撻を賜りたいと思えます。

Q2: MIDI規格の方向性についてお話しください

A2: MIDI規格は、様々な対応により音楽を司るインターフェースとして、AMEIの中心的存在として機能しております。しかしながら、今後は他業界への対応を今まで以上に速やかに行う必要があります。新規格への取り組みは大きく分けて、

- 1) Mobile MIDI
- 2) MTL (Multiple Transport Layer) WGによる統一規格の設定
- 3) USBへのより詳細な対応

を中心に進めて参ります。さらには「次世代MIDI」も視野に入れ、今後のMIDI規格の将来像を模索しなくてはなりません。

私はエンジニア出身ではありませんが、その反面、市場で多くの割合を占めるコンシューマーサイドからの客観的な見方が出来るという面を持っています。たとえば、より高度にしかも急速に進歩するITに対し、必ずしもコンシューマーや他業界が同等の発展スピードを求めている訳ではありません。実は多くの一般コンシューマーは、むしろゆったりとした進歩を望むものです。考えようによっては、コンピュータやデジタル楽器などの発展が多くの場合ユーザー不在で決まってしまうことを、今こそ反省すべき時なのかも知れません。

しかし進歩に対して背を向ける訳にはいかなないことも、また事実であります。今日の社会では発展スピードの向上が当然のように期待されている以上、時には積極的に2極分化を推奨すべき状況になることが予想されます。現実的にMobile MIDIに於いては、初めてのMIDI規格2極分化構造と言えるのではないのでしょうか。他業界への対応がMIDIの普及・発展にとって大きな可能性を持っておりますが、他業界を巻き込む以上、より多くの情報と経験者による適格かつ迅速な判断が求められます。そのスピードに対応すべく、今まで以上に速やかに「WG (ワーキンググループ)」を組織することが意志決定の近道となると同時に、規格の2極分化という割

り切りもまた重要な判断基準になるでしょう。少なくともMobile MIDIに関しては、体験によって学ぶだけの時間的余裕がないところまで、世の中のニーズが迫って来ているわけですから。

Q3: MIDI規格委員会の今後についてお聞かせ下さい

A3: 音や音楽を取り囲むデジタル・ネットワーク環境下においては、世界中で瞬時に情報を共有することが出来ます。しかしながら、必ずしも世界中が画一的な方向に進む訳ではありません。最近の傾向を、「画一化の中の個性化」とでも表現出来ると思います。音楽の傾向も、各国がよりローカル化する一方、その中では同一ジャンルに集中しながらもお互いが個性を主張しており、結果として画一化しつつ多様化している、というのが実状です。日本国内に於いても、「J-ポップ」なるジャンルは過去にはジャンル化されておりました。

エンジニアリングに於いても同様で、レベルにより、画一化と多様化の両面に対応する柔軟性が必要です。MIDIにおける統一規格は今後、規格という画一化と、他業界への対応という多様化の両面を、急速に迫られることとなるでしょう。

MIDIの多様化を進めることは、結果として多くの他業種企業がAMEIに集結することとなり、それによって、幅広い情報と有能な経験者による高度な情勢判断および市場予測が可能になります。

MIDI規格委員会としましては、そのようなビジョンを描きつつ、他の専門委員会、部会、WGと綿密な連携を取りながら活動を展開してゆく所存です。このようなアクティブなAMEIの活動が、会員企業の具体的な発展という形で還元できるようにすることを、切に期待するものです。



加藤 世紀委員長

MIDI規格(フォーマット)に関するルール

- MIDI規格(SMF、RP等を含めMIDI規格のフォーマット)の制定・変更・管理に関するすべては1元的にMIDI規格委員会にて実施・決定される。
- MIDI規格(フォーマット)の呼称、ロゴ及び商標はすべて社団法人音楽電子事業協会が保有する。会員はこのフォーマットを共通に活用し普及する。
- 現在認知されている規格呼称は、「MIDI 1.0規格」、及びRPで規定されたもの。

既に、前々号のAMEI News Vol.12また前号AMEI News Vol.13で同ワーキンググループについて報告させて頂きましたが、今回は、31社（内非会員会社7社）65名の同ワーキンググループで審議され、ほぼ完成に近づいたガイドライン内容について報告いたします。

現在、このガイドラインは「Mobile Guideline for MIDI」というタイトルで、日本語版および英語版の最終版を作成中です。英語版は、完成後、MMA(MIDI Manufacturers Association)へRP承認のための資料として提出する予定です。

[本RPについて]

本RPは、携帯端末などに関するSMF (Standard MIDI File) コンテンツの制作、音源デバイスならびに再生機器（プレイヤー）の開発のためにMIDI 1.0規格を使用するにあたり、音楽電子事業協会MIDI規格検討委員会モバイルMIDIワーキング・グループによってRP (Recommended Practice) として策定され、MIDI Manufacturers Association (MMA) と社団法人音楽電子事業協会 (AMEI) との合意のもとに制定されたものである。

[背景]

MIDIは本来、送信側と受信側が一元的に管理されていることを前提として考案されたプロトコルであり、着信メロディをはじめ、MIDIを利用したモバイル機器ならびにこれらのアプリケーション市場に於いて、SMFコンテンツ、伝送系、再生端末、音源LSI との間でMIDIデータをやりとりする際の楽音再生の互換性を保つことが難しくなることが予想される。従って今後、MIDI規格の管理団体として、MIDI、SMF等の誤った使い方を防止すると同時に、MIDI規格ならびにRPを様々な業種において理解しやすいものとし、かつMIDIやSMFなどのAMEIが管理する各種規格をモバイル分野に適用することによって、コンテンツや機器同士の互換性を確保するためのガイドラインの策定が必須となっている。

[摘要範囲]

- 1) 本RPは、性能的にGM (General MIDI) Level 1.0を適用するのが困難な機器やコンテンツに対して適

用される。

- 2) 本RP内の記述に於いて、推奨項目とする事項については、[推奨]と記述し、特に記述のない項目に関しては、必須事項とする。
- 3) SMF のメタ・イベントは楽曲の再生に関して直接影響を及ぼさないため、その振る舞いを含め、本RPに関しては特に規定しない。
- 4) 本RPは、コンテンツ制作ガイドライン、コンテンツ再生ガイドライン、音源ガイドラインで構成されるが、それぞれの適用においては、必ず全てのガイドラインに対して矛盾のないことや互換性が保たれることを確認しなければならない。
- 5) 本RPにおける再生プレイヤーは SMF、あるいは今後音楽電子事業協会がファイルフォーマットとして認定するファイル形式を入力ファイルとして想定すること。
- 6) コンテンツ制作ガイドラインは、市販のシーケンサソフトを使用して制作されることを想定している。
- 7) コンテンツ再生ガイドラインは、プレイヤーをインプリメントするにあたって注意すべき項目や、コンテンツ制作ガイドライン、音源ガイドラインだけでは不明確な内容について言及する。ハード構成やインプリメント内容によって、直接適用させることができないような記述があった場合には、開発者はそれぞれのモデルの相当する部分に読み替えて設計を行うこと。
- 8) 音源ガイドラインは、携帯端末における演奏データの互換性を維持するために、演奏表現に最低限必要な共通の音源仕様を定めるものである。

[General MIDI Level Mobile ロゴ]



本RPで定義された音源仕様を完全に満足する音源を"General MIDI Level Mobile"対応音源と称し、また、本

RPで定義された音源を対象とし、本RPに記されたコンテンツ制作ガイドラインに従って制作されたコンテンツを"General MIDI Level Mobile"対応コンテンツと称する。

"General MIDI Level Mobile"の日本語表記は「GMレベルモバイル」とし、略称は英語表記/日本語表記ともに"GMM"とする。GMM対応音源を持つ機器あるいはソフトウェア、ならびにGMM対応コンテンツには、ロゴマークを付与してもよい。

平成12年4月から容器包装リサイクル法が完全施行され、「紙製容器包装」及び「その他のプラスチック製容器包装」が新たに分別収集及び再商品化（リサイクル）の対象になったことは、既に皆様ご承知のことと存じます。事業者には再商品化義務が課せられていますので、自ら又は指定法人に委託して再商品化を履行する必要があります。当協会会員会社で一般消費者に渡る製品を製造・販売する会社を対象になっていますが、今一度各社における対応状況の確認をお願いしたいと思います。

さて、今後の法律への対応ですが、新たな義務が平成13年4月1日から発生します。本年4月から対象となった「紙製容器包装」及び「その他のプラスチック製容器包装」の分別を容易にするための表示等について、平成11年3月から「産業構造審議会廃棄物・リサイクル部会容器包装リサイクル小委員会」で検討されてきましたが、平成12年7月31日に「報告書」がまとめられ、識別マークの表示等について了承されました。「報告書」については、通産省の次のホームページからダウンロード可能です。

<http://www.miti.go.jp/kohosys/press/0000836/0/recycle3.pdf>

これにより事業者は「紙製容器包装」及び「その他のプラスチック製容器包装」に対し、容器包装リサイクル法の対象物であり、分別排出・回収が必要である旨の識別マーク表示義務が課せられます。

市町村における最近の「紙製容器包装」及び「その他のプラスチック製容器包装」の分別収集取り組み状況は、300弱の自治体で全国の1割程度のようなようですが、来年度以降計画している市町村は多いようです。又、名古屋市のように製品の例を小冊子にて紹介し、紙とプラスチックの分け方を消費者に啓蒙している所もあります。こうしたことは他の市

町村へも広がる傾向が見られます。消費者が市町村の指示に従って、容器包装の分別排出を容易に実施するには、「識別マーク」は重要な目安です。各社において「識別マーク」表示への、早めの対応をお願いしたいと思います。

尚、「その他のプラスチック製容器包装」への材質表示も事業者の自主対応事項として要望されていますので、前述の「報告書」を参照下さい。



「紙製容器包装」への識別マーク



「その他のプラスチック製容器包装」への識別マーク

容器包装の識別マークに関する問合せ先

- 紙製容器包装識別マーク
紙製容器包装リサイクル推進協議会
〒105-0003
東京都港区西新橋1-1-21 日本酒造会館3F
TEL:03-3501-6191 Fax:03-3501-0203
<http://www.kami-suisinkyō.org/>
- プラスチック製容器包装識別マーク
プラスチック容器包装リサイクル推進協議会
〒105-0003
東京都港区西新橋1-1-21 日本酒造会館3F
TEL:03-3501-5893 Fax:03-5521-9018
<http://www.pprc.gr.jp/>

第5回AMEI MIDI規格委員会主催 MMA Meeting 出席及び NAMM International Music Market 2001 ビジネスツアー募集

MIDI規格委員会では、今年もMMA Meeting / NAMMビジネスツアーの参加者募集を下記の通り実施いたします。このビジネスツアーでは、日頃の委員会活動を、米国MMA (MIDI Manufacturers Association) メンバーと電子メール等で行っていますが、MMA総会も開催され多くのMMAメンバーも一同に会するこのNAMM期間中に現地にてAMEI/MMA会合を開

催し、相互コミュニケーションを図り、理解を深めることを目的としています。

この会合に参加希望されない会員には、NAMMショー（昨年度出展社1249社、入場者数は、62,596人）の視察また全日自由行動となっているので、現地での商談などに、このツアーの利用をお勧めいたします。

催行期間: 2001年 1月17日(水)～2001年 1月23日(火) 5泊7日

旅行費用: 179,000円

利用ホテル: アナハイム：ディズニースタート・リゾート・ホテル（デラックスホテル）
一人部屋追加料金： 67,000円

最少催行人員: 15名

申込締切: 2000年12月15日（金）

その他の都市、期間の延長などのアレンジも可能です。ご相談ください。

日	月日(曜)	地 名	現地時間	交通機関	予 定	食事
1	1月17日 (水)	東京(成田)発 ロサンゼルス着	17:25 11:20	全日NH006 (予定) 専用バス	空路、ロサンゼルスへ(直行便又は西海岸経由) ホテルへ ＜アナハイム泊＞	夕：機内 昼：X 夕：X
2	1月18日 (木)	アナハイム滞在			AMEI/MMA Unofficial-Meeting (NAMM初日) ＜アナハイム泊＞	朝：O 昼：X 夕：X
3	1月19日 (金)	アナハイム滞在			(NAMM) ＜アナハイム泊＞	朝：O 昼：X 夕：X
4	1月20日 (土)	アナハイム滞在			AMEI/MMA Official-Meeting (NAMM) ＜アナハイム泊＞	朝：O 昼：X 夕：X
5	1月21日 (日)	アナハイム滞在			MMA総会参加 (NAMM最終日) ＜アナハイム泊＞	朝：O 昼：X 夕：X
6	1月22日 (月)	ロサンゼルス空港へ ロサンゼルス発	午前 13:05	専用バス 全日空NH005 (予定)	空港へ 空路、帰国の途へ(直行便又は西海岸経由) ＜機中泊＞	朝：○ 昼：X 機内
7	1月23日 (火)	東京(成田)着	16:15		到着後、解散	機内 (軽食)

ご注意：発着時間、交通機関等は変更になることがあります。

費用に含まれるもの

- (1) 日程表に記載した航空運賃エコノミークラス運賃（成田空港発着基準）、空港～ホテル間の専用送迎バス、団体行動中のチップ
- (2) 日程表の滞在都市ホテル宿泊料金及び税金・サービス料（ツインルームに2名様宿泊）

- (3) お一人様スーツケース1個の手荷物運搬料（各航空会社の規定範囲内）
- (4) 団体行動中にドライバー・ガイドに支払うチップ
- (5) 米国空港税、成田空港施設使用料
- (6) 期間中の朝食5回
- (7) 海外傷害保険（団体掛け）

費用に含まれないもの（上記に記載のないものは旅行代金に含まれません。その主なものを例示します。）

- (1) 個人的性格の諸費用（電話代、クリーニング代、飲物費等）
- (2) 渡航手続き諸費用（新規旅券申請のための旅券印紙代、新規旅券申請書類代行作成費用等）
- (3) 超過手荷物運搬料金
- (4) 現地宿泊ホテル～NAMM会場間の交通費
- (5) 日程表記載以外の国内移動費用
- (6) 現地オプションツアー代金（別途料金の小旅行）

- (7) ホテルシングルルーム利用の場合の追加料金（@67,000円）
- (8) 航空機ビジネスクラス利用の場合の追加料金（@別途ご連絡いたします）
- (9) 任意の海外旅行傷害保険（個々のお客様から依頼のある海外旅行個人任意保険）
- (10) NAMM入場券

旅行企画：(社)音楽電子事業協会MIDI規格委員会
旅行主催：株式会社日本交通公社

お問い合わせはお申込みは：
AMEI事務局 まで
TEL 03-5226-8550 FAX 03-5226-8549
または webmaster@amei.or.jp

会員名簿（五十音順）

あ アークテック株式会社 株式会社アートポスト 株式会社アイ・オー・データ機器 株式会社アイシックス 株式会社アイデックス アイワ株式会社 アカイトプロフェッショナルエイ株式会社 株式会社アスキー アップルコンピュータ株式会社	す 株式会社ズーム 株式会社鈴木楽器製作所 せ セイコーインスツルメンツ株式会社 株式会社セガ・ミュージック・ネットワークス そ ソニー株式会社	へ ベスタクス株式会社 ま 松下通信工業株式会社 松下電器産業株式会社 松下電工株式会社 み 有限会社ミュージカルプラン 株式会社ミュージック・シーオー・ジェーピー 株式会社ミュージックネットワーク ミュージックノート株式会社
い 株式会社石橋楽器店 株式会社インターネット インフォコム株式会社 え 株式会社エクシング 株式会社エム研 株式会社エムゾーン	た 株式会社第一興商 株式会社タイカン 株式会社タイトー 大日本印刷株式会社 株式会社タムラ製作所 つ 株式会社ツーカーセルラー東京	め 株式会社メガフュージョン も 株式会社モリダイラ楽器
お 沖電気工業株式会社 有限会社オブ・インターラクティブ 株式会社音響総合研究所 か カシオ計算機株式会社 カモンミュージック株式会社 株式会社河合楽器製作所	て ティアック株式会社 TDK株式会社 株式会社電波新聞社 と 東映ビデオ株式会社 東京サウンド株式会社	や 株式会社山野楽器 ヤマハ株式会社 財団法人ヤマハ音楽振興会 ヤマハミュージックトレーディング株式会社 株式会社ヤマハミュージックメディア ゆ 株式会社有線ブロードネットワークス
き ギガネットワークス株式会社 有限会社キュービックエナジー 株式会社キューブ く クラリオンソフト株式会社 こ 株式会社コナミコンピュータエンターテインメント東京 株式会社コルグ コロムビア音響工業株式会社	に 株式会社日光堂 ニフティ株式会社 学校法人日本工学院専門学校 日本コロムビア株式会社 日本シンセサイザープログラマー協会 日本電気株式会社 学校法人電子学園日本電子専門学校 日本ビクター株式会社 は パイオニア株式会社	ら 株式会社ラグナヒルズ り 株式会社リットーミュージック 株式会社リムショット ろ ローム株式会社 ローランド株式会社
さ 株式会社サンワード し 株式会社シーティーエー 株式会社シーミュージック ジェイフォン東日本株式会社 島村楽器株式会社 シャープ株式会社 株式会社J E U G I A 学校法人 尚美学園	ひ 株式会社P F U 株式会社ビーエムビー・ドットコム ビクターテクニクスミュージック株式会社 ビクターレジャーシステム株式会社 ふ 株式会社フェイス フォステクス株式会社 不二音響株式会社 富士通株式会社 株式会社プリマ楽器	わ 株式会社ワキタ 〈以上、会員会社92社〉 〈賛助会員〉 株式会社大阪村上楽器 株式会社日本経済新聞社 有限会社博秀工芸 株式会社ミュージックトレード社 有限会社ミューレイディア 株式会社ラプラス 〈以上、賛助会社6社〉

告 知

12年度 MIDI検定試験予定日

日 時

3級：平成13年1月28日(日) 午後1時より

2級：平成13年1月28日(日) 午後3時30分より

(2級1次筆記は3級筆記と同日受験可)

実施場所

全国主要都市及び

有名コンピュータ・ミュージック専門学校

2級実技試験 平成13年3月予定

詳細はAMEIホームページで

<http://www.amei.or.jp>



MIDI検定試験3級
公式ガイドブック2000年版
定価 2,000円+税



MIDI検定試験2級
公式ガイドブック2000年版
定価 3,800円+税



MIDI1.0 規格書日本語版
定価 6,500円+税



マルチメディアテキスト99 CD-ROM
定価 5,000円+税

